

平成 22 年 11 月 15 日

平成 22 年度 全国胡蝶蘭部門代表者会議 報告書

平成 22 年 11 月 11・12 日と山口県の部門員の皆様のご協力を得て山口市にて開催いたしました。皆様切磋琢磨と日々お忙しい中、社団法人花き生産協会洋らん部会胡蝶蘭部門の役員と各県代表そして山口県内の部門員により花き業界を担う胡蝶蘭部門の運営・研究・研修等の活動の方針を議論し、ご来賓より世界情勢の中の日本花き生産協会あり方や厳しい経済下における組織の重要性、各個人の責任の重さを問われるお話頂きました。

私たち自らが行なうべきことは多く有り、生産者としての物創りの熱意を流通業者・消費者まで伝えようと締めくくられました。

下記にて議事報告をさせていただきます。

記

日時：平成 22 年 11 月 11 日 14:00 より開催

開催地：山口県 山口市 翠山荘

※来賓挨拶 山口県農林総合技術センター 農業技術部

花き振興センター 所長 石光 照彦 様

温暖化による農作物への影響は大きい山口県では今年度の平均値気温は例年より 3℃上回りました。

多くの作物に対応できる農業用ヒートポンプの開発を進め生産効率を高める必要が有る。

※ 日本花き生産協会活動報告

社団法人日本花き生産協会 理事 内田 傳 様

日本花き生産協会の組織・運営・活動の報告として

今、環太平洋戦略的経済連携協定（TPP）等の自由貿易協定（FTA）への日本国の加盟や推進が考えられています。私たち生産者が自ら諸外国と競争する力を持たなければならない。それには生産・販売面そしてそれらを取り巻く制度の面において改革を急ぐ必要がある。

低迷する消費面では消費者への花広報活動として以前より模索されてきた消費拡大委員会の 1/1000 構想も残念ながら合意に至りませんでした。近く開かれる会議にて生産協会独自でも市場協会の協力を得て具体的な検討をスタートさせるよう提案して行きたく考えています。

生産面においては各個人が周囲の作物に十分気遣った農薬使用を配慮する中、花卉における暫定的処置を安定的なものへ認可を求めていくことや、他の諸外国がすでに取り入れている農業用電力への契約移行等、諸外国と同じレベルで競争ができるように導くこと。

販売面として市場での買参人番号の明記や市場手数料の抑制、また流通が国内生産物を重視し輸入品に傾かないよう働きかける。さらには市場が倒産した際いかに協会員を保護するかなど。

日本花き生産協会は多くの問題を生産者サイドに立って考え活動している。

今後も更に生産者の協会として協会員である生産者の利益の向上を目指すた

めには末端の協会員である生産者一人一人が考え、責任を持ち立ち上がる時が来ている。(添付ファイル ① ② ③ ④)

※会議 <議題>

1. 調査研究事業

● 温度処理試験 (添付資料、現時点未公開)

- 愛知農業総合試験場での 2009 年花芽抑制試験の報告は現在学会未発表のため公開は出来ませんが希望の方は県代表もしくは部門メーリングリストでお問合せください
- 愛知農業総合試験場での今年度花芽抑制試験区

2010 花茎発生抑制試験計画

(1) 試験区

	温度	施肥管理	
①	31°C (6hr.)/28°C (6hr.)/25°C	慣行(NH4 22ppm)	
②	28°C (12hr.)/18°C	慣行(NH4 22ppm)	
③	28°C (12hr.)/18°C	NH4 80ppm	2 月末
④	28°C (12hr.)/18°C	NH4 120ppm	3 月末
⑤	28°C (12hr.)/18°C	NH4 120ppm	2 月末
⑥	28°C (12hr.)/18°C	NH4 120ppm	1 月末
⑦	25/18°C	慣行	

(2) 供試品種、供試株数

アマビリス	200 株	各区 30 株前後
V3	200 株	各区 30 株前後

(3) 試験開始

施肥処理開始時期	2010.9 月中下旬～
抑制試験開始時期	2010.10 月中下旬～

施肥 (かん水) 間隔 4 回施肥し、5 回目は水をかける

アマビリス	7～10 日
V3	10～14 日

(4) 試験区についてのコメント

- ・ ①は花茎発生完全抑制、⑦は全て花茎発生する区として対照として設ける。
- ・ アンモニア処理は、温度処理の 1 ヶ月前から行う。

● 花ふけ調査研究

「花ふけ」の因果関係調査について

これまで部門の方々に様々な調査が行われてきました「花ふけ」ですが、今回、“部分ふけ”に狙いを定め“花ふけ”とし発生株を一箇所にあつめ、1株ごとにカルテを作りその発生の様相を記録、同時にウイルス検定をし、統一条件で1シーズン栽培して“花ふけ”“がどの程度再現されるのかどうかを明らかにしようとする調査研究事業です。

“花ふけ（部分ふけ）”発生株の募集をして“花ふけ”発生株を香川大学農学部深井先生へ送り、深井先生に因果関係項目とその他の要因の確認・分析をお願いした。深井先生によって“花ふけ”発生株のウイルス簡易検定を行って頂きました。

又、H22. 8/30に愛知県名古屋市にある日進機工株式会社での巨合生物科技股份有限公司（Genetop）様の協力でPCRでのウイルス検定デモンストレーションの場でウイルス検定を行いました。この時は先に深井先生にお送りした検体が間に合わなかったため、参加された方の持ち込んだ検体で検定を行いました。

このPCRでの検定の模様は部門のHPに掲載されています。

深井先生に依頼した検体も後日、(有)福田園芸様にPCRでのウイルス検査を行いました。

深井先生が行ったウイルス簡易検定より詳しく調べる目的で行いました。

今年7月の終わりに神奈川の小島さん経由で市橋先生のHPで紹介された部分花老けはORSVが原因という論文が発表されました。学術的にORSVと“花ふけ”の関連を証明したという論文です。台中の中興大学のFun-Jyh Jan教授達の成果です。

愛知教育大学 市橋教授に部分花老け論文の摘要の翻訳をお願いいたしました

この数年、白花ファレノプシスに皺様症状を発生する新病害が台湾、日本、中国で見られている。この異常は花もちを悪くし、生理障害による症状と考えられてきた。この研究の目的は、この障害の真の原因と病徴をはっきりさせることである。花に症状のでたV3を5株を集め、18のウイルス抗体を使ってenzyme-linked immunosorbent assayでテストした。症状の見られた1株(96-Ph-16)の葉と花からの抽出液はオドントグロッササムリングスポットウイルス(ORSV)にのみ陽性であったが、その他の4株(96-Ph-7, 96-Ph-17, 96-Ph-18, 96-Ph-19)はORSVとCymVv抗体に陽性反応を示した。これらのORSVに陽性反応を示した5株の花から分離したウイルス抽出液をChenopodium quinoa(検定植物)に接種した所ORSVが検出された。ORSVとCymMVに複合感染した株(96-Ph-19)の分離液からはCymMVも検出された。この症状の原因を確定するため、健全な(無病の)ファレノプシスの実生に分離したORSVとCymMVを単独あるいは重複接種した。この、戻し摂取の結果はORSVが白花ファレノプシスの花卉に発生する皺様症状の唯一の原因であることを示していた。この研究で分離されたORSVの外皮蛋白遺伝子の塩基配列は、遺伝子バンクに登録された41のORSVと塩基配列で97.3-100%、アミノ酸配列で96.2-100%の共通性を示した。この結果はORSVが白花ファレノプシスの花卉に発生する皺様症状唯一の原因であることを示した最初の報告である。

今回、“花ふけ”の原因がORSVならば検出は可能ですから、培養段階でのウイルスチェックで効果が現れたということで納得できます。ここ数年“花ふけ”発生株を持っている生産者が減ったことを思えばウイルスチェックがきちんとなされてきた結果だと思います。私たち生産者がやらなくてはいけない事は感染株を持ち込まないこと、既に出たものは処分し、手、作業用具、作業台、ベンチなどきちんと消毒することを行うことなど出来る事は色々あると思います。

また、2010年会報Vol.19の市橋先生が書かれている「種苗業者へのアンケート結果から」でも種苗業者は簡易検定やPCRでのウイルスチェックは行っていますし、種苗生産時に感染株を増殖しないこと、苗のところからウイルスフリー苗を導入し栽培中に感染させない生産をして咲かせるのが最適だと思われます。

私たち生産者も今まで以上にウイルスへの関心を高く持ち簡易検定などの方法で健全な栽培に努めウイルスの存在しない環境を作り、さらにPCR等の高度な検定が必要な場合に備えて部門で何らかの検査システムを構築する必要も有るのではないのでしょうか。

2. HPの運用について

昨年、9月に埼玉で行われました代表者会議にて部門HPのリニューアルと運用について説明させて頂き現在まで進めてまいりました。その中での問題点やさらなる改善が必要な所を詰めていこうと思います。

①. 現在のコンセプト

“胡蝶蘭のマーケット拡大を目指しての情報発信ホームページ”

今までは主に部門員向けの情報発信などでしたが今後は今まで同様に部門員への情報発信+胡蝶蘭のマーケット拡大のため販売店(消費者)などに向けて情報発信していきます。

②. 現在のホームページの問題点と対応

1) 部門員名簿の業務仕訳がされていない為どのような商品の出荷をしているかが解らない。

今後の対応・・・名簿の現在の仕様に仕様を別紙の様に変更し再度各県代表に調査依頼し変更する。

2) バナー広告への募集が少ない状態

今後の対応・・・TOPページへの企業誘致活動UP

3) “消費者の方へ” ページの未使用の状態

今後の対応・・・販売店広告の誘致、胡蝶蘭の簡単な育て方などの表示

*販売店広告は1年間1万円でバナーリンクを張るよう募集を強化!

4) “市場、販売店の方へ” ページの未使用の状態

今後の対応・・・部門員においては無料で記載できるようになっているため希望者は随時リンク用バナー等を張っていく。

5) “生産者に向けて” ページの充実させるため

今後の対応・・・部会賛助会員であれば無料にてリンクを張る事が出来るのでその事を部会賛助会員にこの事を伝えリンクを張らせてもらう。

③. 新しい取り組み

将来的に胡蝶蘭に関する情報でどこのサイトにも負けないようなホームページを目指す為、胡蝶蘭に関する国内の生産量、市場規模、栽培技術、消費者にもできる簡単な育て方、種苗登録品種紹介、胡蝶蘭に関する商標登録の紹介など情報をより細かく載せる事により中身の濃いサイト作りを目指していくための仕組み作りをしていきます。

④. 現在、役員内に設置されているホームページ担当が企画立案からHP作成まで行っていますが、将来的に企画立案を役員内で行い技術的な作業をテクニカルスタッフへの移行させていと考えています。(技術的に安定させるためです)

⑤. 他に何かHPに希望される事などあれば県代表へ連絡いただくか部門メーリングリストや役員に連絡下さい。

3. 役員構成の変更について

昨年より胡蝶蘭部門におけるデータベース運用の保留ため各県1人ずつ設置しているデータベース担当がなくなりますが、私たちが直面する大きな問題として国内経済情勢の悪化に伴う胡蝶蘭需要の縮小が上げられます。花卉全体の需要低迷が大きな問題とされる今、洋らん部会さらに花卉生産協会は花き振興対策を明確に推し進めまた同時に我々の経営の維持発展を計るべきと議論・活動されています。

私たちも末端の部会員として今後の胡蝶蘭業界の発展を目指し需要拡大のための活動を行なうと共に流通や行政に対し自らの主張を明らかにする必要があると考えます。

このような事から胡蝶蘭部門においても担当役員を置きまた各県にもご協力担当い

ただける担当を置き、出来る事から実行していく事が必要と考え新役務の活動を提案させていただきます

- ① 新役務名称
“消費振興対策担当”
 - ② コンセプト
“国内の胡蝶蘭の消費拡大を目指すとともに私たちの経営の安定と発展を目指す”
- 以上の事を論議し単にデータベース担当から名称変更するのではなく主旨にそった新たな役務を担う担当を設置する事で議決いたしました。

4. 第6回胡蝶蘭部門近畿研修会

- 大阪 鶴見緑地にて 平成23年 10月末 開催予定

5. 日本・台湾・胡蝶蘭生産者交換会について

- 平成23年3月台湾で開催 協力依頼
- 平成23年胡蝶蘭部門近畿研修会内で予定 協力依頼

6. 平成22年度全国花き品評会洋らん部門

- 場所：豊明花き地方卸売市場
平成22年11月23日（火）搬入、24日（水）審査、25日（木）競売

7. 第17回全国洋らん生産者大会について

- 平成24年 長野県で予定

8. 会計よりの報告

- 部分花老け調査研究のウイルス検定費として80,000円支出

9. 部門全国役員の前年度の選出について

- 東西の2ブロック制への移行により新役員は東日本で2名、西日本で1名の選出

10. その他

- 部門メールの活用の促進
- 新規の課題の応募

11月12日 視察 午前8:30出発

(コース) クマサキ洋らん農園 クマ・オーキッド・ガーデン 隅野洋蘭

皆さんそれぞれが独自の考えのもと経営方針を持ちながら且つ仲良く共鳴し合う山口県洋らん部会の素晴らしさを感じました。また台湾のハウスや純水器機など前向きに取り組む姿勢から多くを学ばせていただきました。

胡蝶蘭部門役員として忙しく苦勞の多い職務ですがひたすら頑張る部門員がいる組織の活動と報われる想いが致しました。

以上、正午をもって二日間にわたる代表者会議の日程を無事終了いたしました。

最後になりましたが、山口県代表役員を初め山口の皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。

(社) 日本花き生産者協会 洋らん部会
胡蝶蘭部門 部門長 岡田 茂